

近畿建設リサイクル表彰	会 長 賞
受 賞 者	西松・浅沼建設共同企業体 和泉建築出張所 (仮称) 阪和いずみ病院移転立替え工事
所 在 地	大阪市中央区
受 賞 テーマ	医療施設建設工事における環境負荷低減に向けたさまざまな 3R 活動

【取組概要】

病院（678床）新築工事にて、建設発生土を現場内利用（10,900m³、33%）及び工事間利用（6,120m³、18.5%）し、建設発生土の有効利用を推進したほか、簡易山留めの中詰め材として利用した再生砕石を地業で再利用（309m³）しました。また親杭横矢工法を鋼矢工法に変更し、建設発生土の発生を抑制、コンクリート杭工事にて廃棄物の搬出が少ない工法を選択し発生抑制に努めたほか、分別の徹底をはかり、再資源化率99%を実現しました。

① 建設発生土の有効利用

病院新築工事にあたり、33,080m³の建設発生土が発生するなか、近隣の造成工事と調整を行い、6,120m³（18.5%）の工事間利用を実現しました。工事間利用した現場は、300mと近隣ではあったとはいえ、別事業であったことから、土質や土工期などの連携を行うことで実現できました。また、10,900m³（33%）は現場内で利用し、建設発生土の有効利用を推進しました。

② 簡易山留めの中詰め材の再生利用

簡易山留めの中詰め材として利用した再生砕石309m³（100%）を現場内の地業に再利用しました。

③ 鋼矢板工法による建設発生土及び建設発生木材の発生抑制

当初設計では、親杭横矢板工法を実施する予定であったところ、鋼矢板工法を提案し、掘削がなくなかったことで、建設発生土800m³（100%）の発生を抑制するとともに、横矢板が不要となったことで、建設発生木材10m³（100%）の発生を抑制しました。また鋼矢板（1,242m²）は再使用される予定です。

【評価】

建設発生土の現場内利用及び民間工事同士で建設発生土の工事間利用を実現させたことが優れた取り組みとして評価できる。